

## 岩手県技術士会 部会活動報告

活動名	現地見学会 ～災害に強い道路計画のために～ <span style="float: right;">(CPD 番号 22-12 )</span>
主催	岩手県技術士会 道路部会
日時	平成 22 年 9 月 16 日 (木) 8:00 ～ 17:00
場所	一般国道 342 号市野々原周辺～須川温泉
参加人数等	13 人

### 活 動 内 容

～災害に強い道路計画のために～

#### 1. 見学会の概要

- 地震発生年である 2008 年 10 月に現地見学会を開催し、復旧前の状況を目の当りにしていた。今回も再度同じ箇所、復旧方法や防災対策等を見学することにより、今後の道路計画に役立てることを目的として実施した。

##### (1) 法面崩落復旧箇所

- 白崖現場及び矢櫃現場とも大規模法面崩落箇所であり、両箇所とも地震発生から半年程度通行止めとなった箇所である。
- 両箇所とも被災前は擁壁＋落石防護柵が設置されていた箇所であるが、地震により大規模崩壊が発生し、擁壁は破壊するとともに大量の崩落土により埋まってしまった。
- 調査により、崩壊を免れた法面上部でも亀裂の発生が確認され、安全性の確保から「安定勾配での切土工法」が選択された。地元住民の生活路線ということもあり、早期開通を目指して 24 時間交代制での工事が行われたとのこと。

##### (2) 祭時大橋落橋と新橋建設箇所

- 地震による地すべりのため、橋台が 11m も移動し落橋に至った祭時大橋を背後（写真背後の黄色が橋桁）に、新橋建設現場を見学した。
- 上部工工事の真っ最中で、ワーゲンによる張り出し工事が行われ、年末の開通を目指して工事が行われていた。



#### 2. 感想

- 右写真の箇所が 11m 移動した橋台の背面であり、地震規模の大きさが実感できた。ほんの数秒程度で、ここまでの地形改変をもたらす力に、自然の力の大きさとともに、人間の非力さを思い知らされる現場であった。しかし、被災地は着実に復興を果たしており、今後もその一助になればと思う一日であった。

